

## 上新電機オーディオ試聴会 (2014.12.21)

### —ハーマンカードン製品の試聴—

#### 1. はじめに

ジョーシン日本橋1ばん館オーディオ試聴会で開催されたハーマンカードン製品の試聴会に行ってきました。以下は、その報告です。

#### 2. 試聴会の進行



試聴対象はJBLのスピーカーS4700とマークレヴィンソンのアンプNo.585でしたが、LuxのプレイヤーD-08UによるSACDの再生とNo.585の内蔵DACへのPCからのハイレゾ音源の送り出しで行われました。ケーブル類はシルテック製とクリスタルオーディオのUSBケーブルが使用されていました。

最初は女性ボーカルから始まり、クリスマスソング、沖縄民謡と続きましたが、このS4700はJBLらしい粘っこさが多少薄いイメージがあるものの、ベースの弾み具合や三線の切れはJBLらしいところがあります。ここでピアノ曲とシュタルケルのチェロがかかりましたが、ピアノはスタンウェイかYAMAHAか判別できず、チェロもやや弦の艶に乏しい感じがしました。

この後でホテルカルフォルニアのSACDと192KHz,24bitWAVの聴き比べがありました。No.585はESSのチップで構成されたUSB-DACを内蔵しており、192KHzまでのPCMと5.6MHzDSDの再生が可能となっています。ホテルカルフォルニアのSACDと192KHz,24bitWAVでは、後者の方が所有しているアナログに近い印象がありました。同じく192KHz,24bitWAVでベートーベンのV協もかかりましたが、やはりクラシックは無理かなという印象でした。当方はクラシック専門で、コンサートにも通いますのでこうしたデモではクラシックの再生音質にどうしても厳しい評価になってしまいます。

後半はJazzで、おなじみのサコソフォン・コロッサスや一関のベーシーでのハンク・

ジョーンズのライブ録音、角田憲一のビッグバンドなどがかかり、玉木浩二で締め括りとなりました。これらの中では、ベーシーでのライブ録音がホットなライブの生々しさを伝えており、ここまでのところ、ややさっぱり系で腰高のイメージがしていた S4700 が見違えるように鳴っていました。

総じて、S4700 よりはニュートラルで癖のない No.585 のアンプの方に好感がもたれ、USB 入力の音質もかなりのレベルにあったと感じました。

以上